

平成 29 年度フィリピン渡航について

手嶋 萌 (都市・環境工学科 3 年)

渡航地：フィリピン共和国 マニラ，パンパンガ州



私は、昨年に引き続き今回が 2 度目のフィリピン渡航でした。

私たちがフィリピンに到着したときは、現地は台風が通過した直後だったそうで、ホテルへ向かう道中に道路が冠水しているところは何箇所もありました。フィリピンのインフラ整備の現状を目の当たりにし、大変驚きました。

今回も昨年と同じ村へミシン技術指導に行きました。昨年も思ったのですが、現地で使われているミシンを見てみるとよく整備されていて、現地の方は私たちが贈ったミシンを大切に使うてくださっていることがよくわかりました。現地の方のお話を聞くと、ミシンを使って作った縫製品を売ることによって安定的に収入を得ることができるようになり、この 1 年間で、貧弱な家屋からブロック積みの家屋に建て替えできたり、4 人兄弟のうち 2 人しか学校に行けていなかったのが全員学校へ行けるようになったりしたそうです。「皆さんがミシンを贈ってくれたおかげです。」と言われたときは本当に嬉しかったです。また、昨年は裸足でコンクリートの道を走り回っている子供もいたのですが、今年はみんなサンダルを履けていました。昨年、裸足の子供たちを見たとき、痛そうだな、ミシンの力でどうにかならないのかなと思ったことを思い出し、安心して走れるようになって本当によかったと思いました。私たちが行っているミシンボランティア活動が現地の方の役に立っていると実感できて、本当に嬉しく思いました。

ミシン修理技術の指導が始まると、私は緊張して思うように説明ができませんでした。作業方法を人に伝える、しかも英語でとなると、とても難しかったです。昨年一緒に行った先輩方の技術指導は現地の方にも滞りなく伝わっていたのを思い出し、自分の力不足を感じました。また技術指導のときだけでなく、現地のスタッフの方々と行動するときには、スタッフの方が話しかけてくださったことに答えることに精一杯で、会話を膨らませることができませんでした。なかなか話をする機会のない海外の方と行動していたのですから、もっと有意義な会話ができたならよかったのにと大変後悔しました。

この活動に参加し始めてから今までで、修理技術は上達したと思いますが、これからは将来のためにも英語力やコミュニケーション能力、度胸などをもっと身に着けたいと思いました。

また、現地の日本語学校で、日本語



作業の様子

を学んでいる現地の方々と交流をしたときは、日本語を熱心に学んでいる生徒の方々の姿に感動しました。フィリピンは若者の人口が多いため仕事が少なく、また給料も日本と比べてかなり安いそうです。そのため日本語を勉強して、将来日本で働きたいという若者がたくさんいるそうです。日本語学校にお邪魔したときは、前日に会った時の陽気な生徒の皆さんと真逆で、熱心に漢字をノートに練習している姿に驚きました。

私が普段勉強をしているときは、正直、もう勉強したくないと思ってしまうことがあります。フィリピンで真剣に勉強している学生さんの姿を見て、しっかり勉強させてもらえて将来やりたいことも自由に選べて、何不自由なく生活できている私は幸せなのだと気づかされました。この恵まれた環境に感謝して、今までよりも勉学に励もうと思いました。

また、フィリピンの村で出会った方々のように厳しい生活を強いられている人のために、自分にできることをもっと真剣に考えようと思いました。



現地の日本語学校の皆さん